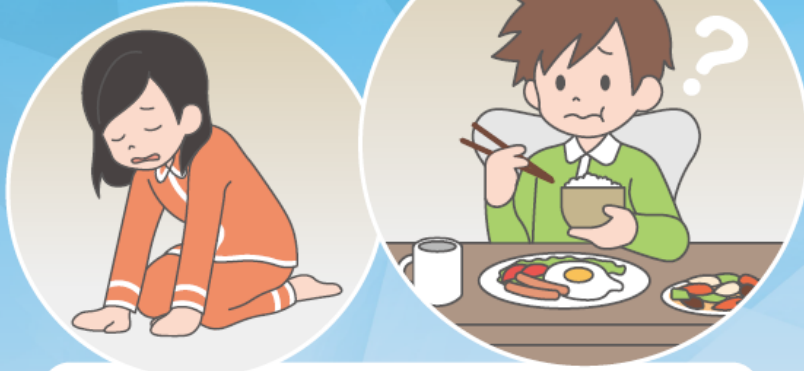


新型コロナウイルス感染症 後遺症リーフレット

新型コロナウイルスの 後遺症について



新型コロナウイルス感染症は、誰でもかかる可能性がある病気ですが、感染したときの症状は人によって様々です。同様に、感染時の症状の有無に関わらず、感染から回復した後も後遺症として様々な症状が見られる場合があります。ロングコビット(LongCOVID)と言います。この後遺症は20歳代・30歳代でも発症する割合が高いなど、どの年代でも認められています。

後遺症の原因としては、自己抗体、ウイルスによる過剰な炎症(サイトカインストーム)、活動性のウイルスそのものによる障害、不十分な抗体による免疫応答などが考えられていますが、明確にはなっていません。このため、後遺症の治療には長い時間がかかる場合もあり、感染から1年経過後も症状が見られる場合があります。

後遺症が疑われる場合は、かかりつけの医療機関、保健所、相談窓口等(詳細は裏面参照)で相談してください。

<主な内容>

- 体験談
- 後遺症に関するデータ紹介
- 症状紹介
- 後遺症かなと思ったら（相談窓口の紹介）

<作成>

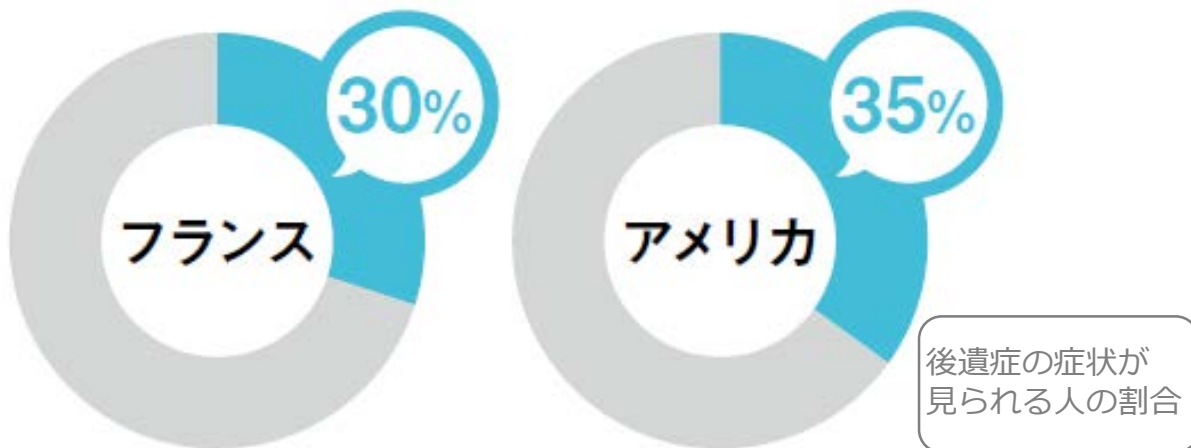
東京iCDC 後遺症タスクフォース

活動内容

- 後遺症に関する知見の分析・共有
- 都民に向けた後遺症の情報発信

後遺症に関するデータ紹介

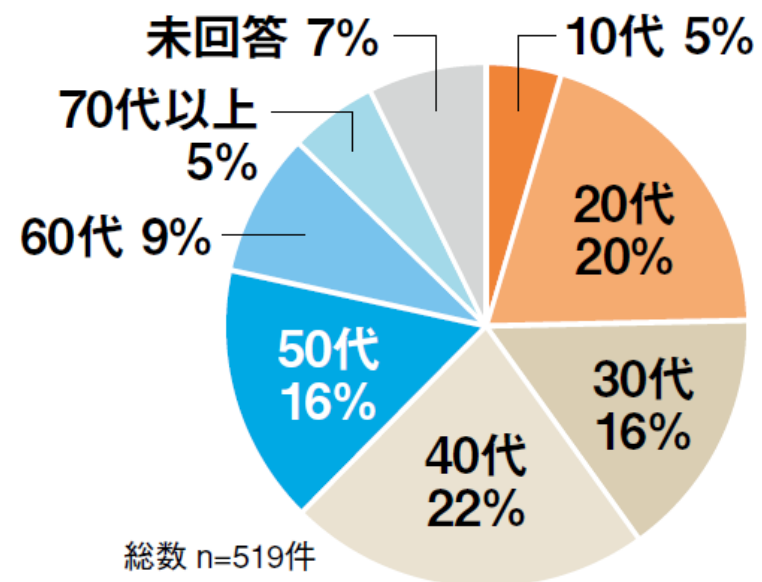
世界各国の状況



出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第4・2版」

- ✓ フランスやアメリカでは、感染診断から一定期間が経過した後も**30%程度に後遺症の症状**が見られるとの調査結果を報告

相談者の年代

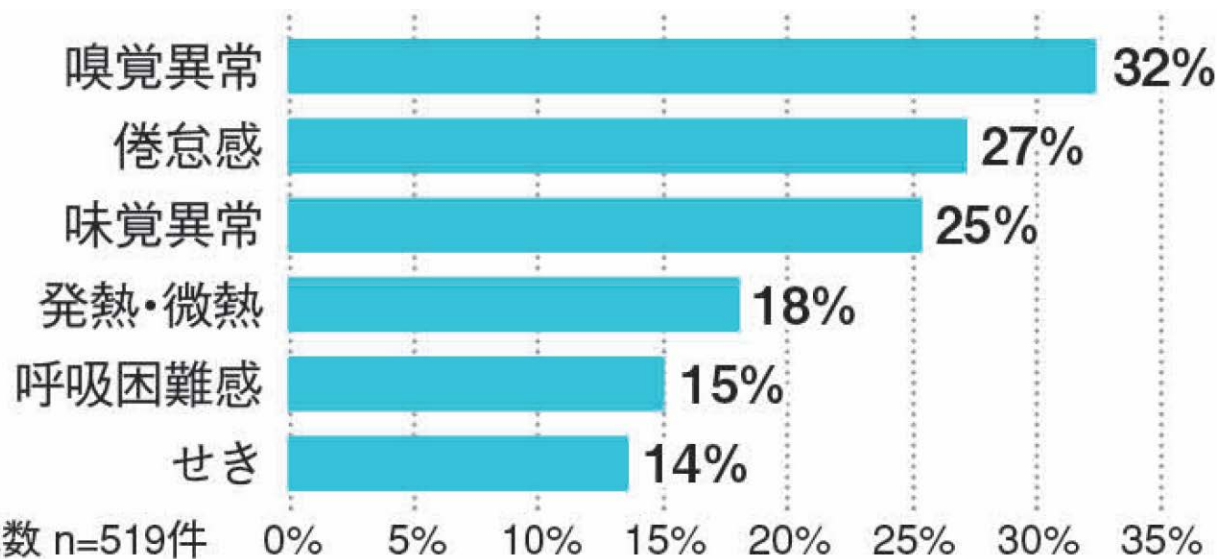


データ提供：東京都病院経営本部（都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」相談状況（令和3年5月末時点））

- ✓ 相談者の**63%が40代以下**となっており、若い年代からの相談も多い。

後遺症の症状紹介

相談者の主な症状



✓ 「嗅覚異常」 や「倦怠感」
など、**様々な症状**が現れている。

✓ **同時に複数の症状**が現れる
場合もある。

データ提供：東京都病院経営本部（都立・公社病院「コロナ後遺症相談窓口」 相談状況（令和3年5月末時点））

後遺症かなと思ったら

- ・ 激しい運動等を避け、かかりつけの**医療機関**や**保健所**などへ相談
（都では、**都立・公社病院に「コロナ後遺症相談窓口」**を設置）